

南城市地域公共交通再編実施計画の改定概要

令和4年2月

南 城 市

1 見直し内容

1.1 見直し概要

- 2022 年度には、支線バス（Nバス）のルート、便数の見直し、幹線バスの統廃合、運行区間の延長等の見直しを行います。
- 支線バスでは、朝夕の利用状況を踏まえた増減便や、循環路線での双方向運行の実施、登下校の利便性向上に向けたルートの見直し等を行います。（資料⑤参照）
- 幹線バスでは、41 番系統の 39 番系統への統廃合や、一部路線の起終点の延伸などを行います。
- 上記の見直しに伴い、再編実施計画に示していた収支の見直しもを行います。
- なお、支線バスについては今回の見直しで、学校の長期休暇にあわせて運行していた系統を、長期休暇に関わらず平日運行に変更しますが、経費の変動はわずかであり収支に影響を与えないため、今回の収支見直しの対象外としています。

表 1.2022 年度の主な見直し内容

区分		系統	見直し内容	
支線バス (Nバス)		A	フェリーの運行時間等にあわせた急行便の運行、通学需要に対応した早朝便の運行等	
		B	午前・午後の別方向の片回り運行から双方向化 41 番系統の廃止代替として B3 系統を新設	
		C	ニーズが高い向陽高校へのアクセス向上。	
		E	利用者数低迷に伴う廃止。	
		F3	ニーズが高い向陽高校へのアクセス向上。	
		G	向陽高校の通学利便性向上に向けた大里東地区のルート見直し。	
		H	利用者数低迷に伴う廃止。	
幹線バス (路線バス)	国道 331 号 (佐敷・知念方面)	39	41 番を統合し、一部便は、豊崎の豊見城営業所まで延伸。	
		41		39 番に統廃合。
		339		開南経由を新設。
	県道 48 号 線・86 号線 (大里・玉城方面)	40	2 便減便。	
		309	一部便がパルコまで延伸。	
	国道 331 号・ 県道 17 号線 (玉城方面)	見直しなし。		
県道 77 号線 (大里方面)	見直しなし。			

1.2 幹線バスの見直し

(1) 国道 331 号（佐敷・知念方面）

- 国道 331 号（佐敷・知念方面）では、系統 41 番を系統 39 番に統合します。
- 統合した系統 39 番は、一部便の起点が那覇バスターミナルから豊崎にある沖縄バスの豊見城営業所に延伸されます。

表 2. 国道 331 号(佐敷・知念方面)の再編概要

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
37 番	那覇新開線	32 便	東陽バス	新里～馬天営業所行、新里～市役所行に分岐し、ほとんどの便が南城市役所発着。	南城市役所発着	沖縄バスの 39 番、339 番、41 番系統と等間隔運行を実施。
38 番	志喜屋線	32 便	東陽バス	朝夕のみ運行し、斎場御嶽発着の 338 番系統を新設。	同左	
338 番	斎場御嶽線	—	東陽バス	斎場御嶽発着で、斎場御嶽線を新設。	同左	
39 番	百名線 ※再編後は南城線	46 便	沖縄バス	南城市役所発着に変更。	市内は同左 2022 年度に一部便が豊見城営業所まで運行区間を延長	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。
339 番	南城～結の街線	—	沖縄バス	南城市役所発着で、結の街線を新設。	市内は同左 2022 年度より開南経由を新設。	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。
41 番	つきしろの街線 ※再編後はつきしろの街(百名経由)線	10 便	沖縄バス	南城市役所発着～西つきしろ間～百名～市役所に運行区間を延長。	同左 2022 年度に廃止、39 番に統合	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。
191 番	城間線	32 便	東陽バス	変更なし。	新里～馬天営業所間から新里～南城市役所に経路を変更。	事業者にて、南城市役所までの乗り入れ可能性を検討。 ※91 番は 2018(平成 30)年 12 月 22 日に廃止し、191 番へ統合

※便数は再編前



図-1.国道 331 号(佐敷・知念方面)の幹線バスの再編内容

(2) 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面)

- 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面) では、2022 年 5 月より系統 309 番の一部便の起点が結の街からサンエーパルシティまで延伸されます。
- また、系統 40 番については、平日が 24 便から 22 便へ、土休日が 16 便から 14 便へのそれぞれ 2 便減便となります。

表 3. 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面) の再編概要

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
40 番	大里線	42 便	沖縄バス	一部便を南城市役所まで延伸。大里第二団地経由は廃止。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。 2022 年 4 月 18 日より減便	結の街 (浦添市国立劇場前) 発着を設け、309 番系統として新設。
309 番	大里～結の街線	—	沖縄バス	結の街～大城・市役所を結ぶ路線を新設。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。 2022 年 4 月 18 日より一部便がパルコまで延伸。	新設。
109 番	大里線	6 便	沖縄バス	廃止。	廃止。	40 番と統合。
51 番	百名線	17 便	琉球バス	変更なし。	百名バスターミナルから南城市役所まで延伸。	地域公共交通確保維持事業の補助路線であることから、関係市町村との調整が必要。
53 番	志喜屋線	17 便	琉球バス	51 番と統合、富里～奥武間、百名 BT～志喜屋間の廃止。		//
54 番	前川線	4 便	琉球バス	変更なし。	変更なし。	

※便数は再編前



図-2. 県道 48 号線・86 号線(大里・玉城方面)の幹線バスの再編内容

2 収支の見直し

2.1 再編事業の事業費

(1) 支線バス

●支線バスの事業費は、2019年再編時の94,900千円/年から、2022年再編時は96,000千円/年と1,100千円/年の増加にとどまっており、事業費の変化はわずかです。

表 4.2022年見直し時の支線バスの事業費

系統番号	運行主体	運行区間	事業費 (千円)
A1/A2 佐敷・知念・百名線	沖縄バス	市役所～馬天～佐敷～安座真～志喜屋～百名～親慶原～市役所	33,700 /32,900
A3 知念・佐敷一周線(つきしろ経由)	沖縄バス	東つきしろ～馬天小前～佐敷小前～知念小前～市役所	1,200 /0
B1/B2 佐敷・ニライカナイ橋・つきしろ線	沖縄バス	市役所～親慶原～安座真～佐敷～馬天～市役所	14,900 /26,300
B3 つきしろ線	沖縄バス	市役所～東つきしろ～市役所	0 /600
C-1/C-2 玉城・大里線	沖縄バス	市役所～親慶原～百名～奥武～船越～稲嶺～仲程～大城～市役所	31,900 /28,200
D-1 玉城東回り線	沖縄バス	玉城東地域を回る通勤・通学ルート	2,700 /1,800
D-2 玉城東回り線(向陽高校経由)	沖縄バス	玉城地域及び向陽高校下校時のルート	5,900 /3,100
E 知念南回り線	沖縄バス	市役所～つきしろの街～志喜屋～百名～市役所	700 /0
F-1 玉城西回り線	沖縄バス	市役所～糸数～前川～湧稲国～船越～市役所	700 /700
F-2 玉城西回り線(玉城こども園経由)	沖縄バス	喜良原～糸数～前川～船越～玉城幼稚園～市役所	600 /600
F-3 玉城一周線(玉泉洞経由)	沖縄バス	市役所～玉幼～愛地～堀川～百名～親慶原～市役所	1,000 /1,000
G 向陽高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～嶺井～仲程～湧稲国～船越～向陽高校入口	800 /800
H 知念高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～知念高校～仲程～湧稲国～糸数～市役所	800 /0
計			94,900 /96,000

※下段が2022年再編

支線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに燃料費を乗じ、人件費及び車両費は各系統で共有しているため、全体の費用を年間の走行キロで按分して路線毎に割り当てて算出しています。

(2) 幹線バス・デマンド交通

- 幹線バスの事業費は、2019年再編時の98,400千円/年から、2022年再編時は100,500千円/年と2,100千円/年の増加にとどまっており、事業費の変化はわずかです。
- デマンド交通は、2019年再編時は、再編当初の2ヶ月間は従前の10人乗り車両を使用していましたが、現在は通年で5人乗り車両を使用しているため、事業費がやや減少しています。
- 全体の事業費は、2019年再編時の238,400千円/年から、2022年再編時は240,800千円/年へと2,400千円/年増加します。(2020年度見直し時は、240,000千円/年)

表 5.2022年見直し時の幹線バス・デマンド交通・全体の事業費

区分	系統番号	運行主体	運行区間	車両	運転手	事業費(千円)
幹線バス	37番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～新里～馬天営業所・南城市役所	13	23	11,700
	38番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～志喜屋			7,300
	338番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～斎場御嶽入口	5	9	8,400
	39番系統	沖縄バス	那覇BT～馬天入口～南城市役所			7,600
	339番系統	沖縄バス	結の街～那覇BT～南城市役所			2,000
	41番系統	沖縄バス	那覇BT～馬天入口～南城市役所・西つきしろ・百名	4	8	4,500
	40番系統	沖縄バス	那覇BT～大城・南城市役所			13,400
	109番系統	沖縄バス	廃止	—	—	0
	309番系統	沖縄バス	結の街～那覇BT～大城・南城市役所	13	20	9,000
	51番系統	琉球バス	那覇BT～稲嶺十字路～玉城中学校前～百名BT			15,200
	53番系統	琉球バス	廃止			0
	50番系統	琉球バス	那覇BT～向陽高校～中山～百名BT・南城市役所	他系統と運用		14,300
	36番系統	沖縄バス	糸満BT～仲程～馬天入口～南城市役所			5,000
		小計			35	60
デマンド交通	おでかけなんじい	鏡原第一交通	久高島を除く南城市内全域	3	6	45,100
	計			44	77	238,400

幹線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに走行キロあたり運行経費を乗じて算出しています。

2.2 再編事業の収入見込み

- 2022 年再編で、路線の統廃合や増減便が行われますが、市内区間の利用者数については、代替する便を利用することで変化しないと想定し、前回見直し時の 2020 年と同じ 206,600 千円/年を見込んでいます。

表 6.再編事業の収入見込み

区分	収入見込み	備考
支線バス	45,300 千円/年	回数券の収入も含む
幹線バス	156,000 千円/年	
デマンド交通	5,300 千円/年	
計	206,600 千円/年	

2.3 収支の見込み

(1) 支線バス

●支線バスの収支は、当初計画の53,000千円/年の赤字に対し、2022年見直しでは、50,700千円/年赤字と、赤字が2,800千円/年減少する見込みとなっています。

表 7.支線バスの収支見込み

系統名	年間収入 (千円)	年間支出 (千円)	年間収支 (千円)	収支率
A1/A2	18,900	33,700	▲ 14,800	56%
知念・佐敷・百名線	18,900	32,900	▲ 14,000	57%
A3	700	1,200	▲ 500	58%
知念・佐敷一周線(つきしろ経由)	0	0	700	
B1/B2	6,600	14,900	▲ 8,300	44%
佐敷・ニライカナイ橋・つきしろ線	7,200	26,300	▲ 19,100	27%
B3	0	0	0	
つきしろ線	200	600	▲ 400	33%
C1/C2	12,000	31,900	▲ 19,900	38%
玉城・大里線	12,100	28,200	▲ 16,100	43%
D-1	900	2,700	▲ 1,800	33%
玉城東回り線		1,800	▲ 900	50%
D-2	1,700	5,900	▲ 4,200	29%
玉城東回り線(向陽高校経由)		3,100	▲ 1,400	55%
E	100	700	▲ 600	14%
知念南回り線	0	0	0	
F1	200	700	▲ 500	29%
玉城西回り線		700	▲ 700	0%
F2	200	600	▲ 400	33%
玉城西回り線(玉城こども園経由)		600	▲ 400	33%
F3	400	1,000	▲ 600	40%
玉城一周線(玉泉洞経由)		1,000	▲ 600	
G	100	800	▲ 700	13%
向陽高校線(大里経由)		800	▲ 700	13%
H	100	800	▲ 700	13%
知念高校線	0	0	100	
回数券	0	0	0	
	3,400	0	0	
計	41,900	94,900	▲ 53,000	44%
	45,300	96,000	▲ 50,700	47%

※下段が2022年再編

(2) 幹線バス

●幹線バスの収支は、当初計画の 35,300 千円/年の黒字に対し、2022 年見直しでは、33,300 千円/年の黒字と、黒字が 2,000 千円/年減少する見込みとなっています。

表 8.幹線バスの収支見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)			収支率		
	再編前	再編後	増減	再編前	再編後	増減	再編前	再編後	増減	再編前	再編後	増減
37番系統	15,800	15,500	▲ 300	8,000	11,700	3,700	7,800	3,800	▲ 4,000	198%	132%	-65%
38番系統	52,500	23,900	▲ 28,600	37,200	7,300	▲ 29,900	15,300	16,600	1,300	141%	327%	186%
338番系統	0	26,800	26,800	0	8,400	8,400	0	18,400	18,400		319%	
39番系統	29,600	20,600 24,700	▲ 9,000 ▲ 4,900	19,800	7,600 8,200	▲ 12,200 ▲ 11,600	9,800	13,000 12,400	3,200 2,600	149%	271% 251%	122% 102%
339番系統	0	5,000	5,000	0	2,000 3,300	2,000 3,300	0	3,000 1,700	3,000 1,700		250% 152%	
41番系統	4,100	4,100 0	0 ▲ 4,100	5,800	4,500 0	▲ 1,300 ▲ 5,800	▲ 1,700	▲ 400 0	1,300 0	71%	91%	20%
40番系統	22,500	13,500	▲ 9,000	16,200	13,400 15,000	▲ 2,800 ▲ 1,200	6,300	100 ▲ 1,500	▲ 6,200 ▲ 7,800	139%	101% 90%	-38% -49%
109番系統	1,500	0	▲ 1,500	2,500	0	▲ 2,500	▲ 1,000	0	1,000	60%		
309番系統	0	9,000	9,000	0	9,000 12,000	9,000 12,000	0	0 ▲ 3,000	0 ▲ 3,000		100% 75%	
51番系統	8,100	28,600	20,500	10,000	15,200	5,200	▲ 1,900	13,400	15,300	81%	188%	107%
53番系統	21,500	0	▲ 21,500	20,100	0	▲ 20,100	1,400	0	▲ 1,400	107%		
50番系統	7,200	8,300	1,100	16,300	14,300	▲ 2,000	▲ 9,100	▲ 6,000	3,100	44%	58%	14%
36番系統	1,000	700	▲ 300	5,600	5,000	▲ 600	▲ 4,600	▲ 4,300	300	18%	14%	-4%
琉球バス交通	36,800	36,900	100	46,400	29,500	▲ 16,900	▲ 9,600	7,400	17,000	79%	125%	46%
沖縄バス	58,700	52,900	▲ 5,800	49,900	41,500 43,500	▲ 8,400 ▲ 6,400	8,800	11,400 5,300	2,600 ▲ 3,500	118%	127% 122%	10% 4%
東陽バス	68,300	66,200	▲ 2,100	45,200	27,400	▲ 17,800	23,100	38,800	15,700	151%	242%	90%
計	163,800	156,000	▲ 7,800	141,500	98,400 100,500	▲ 43,100 ▲ 41,000	22,300	57,600 55,500	35,300 33,200	116%	159% 155%	43% 39%

※下段が 2022 年再編

(3) デマンド交通

●デマンド交通の収支は、当初計画と計画とほぼ同じ 41,500 千円/年の赤字に対し、2022 年見直しでは、39,000 千円/年の赤字と、赤字が 2,500 千円/年減少する見込みとなっています

表 9.デマンド交通の収支見込み

系統名	収入	支出	収支	収支率
再編前	8,300	49,800	▲ 41,500	17%
再編後	5,300	44,300	▲ 39,000	12%
増減	▲ 3,000	▲ 5,500	2,500	-5%

(4) 収支のまとめ

- 再編前の収支は、全体で 39,300 千円/年の赤字に対し、2022 年再編の修正は 33,700 千円/年の赤字となっており、収支は、5,600 千円/年改善される見込みです。

表 10.2022 年度再編の収支見込みのまとめ

	収入			支出			収支		
	再編前	2022再編	増減	再編前	2022再編	増減	再編前	2022再編	増減
支線バス	2,300	45,800	▲ 43,500	22,400	96,000	73,600	▲ 20,100	▲ 50,200	▲ 30,100
幹線バス	163,800	156,000	▲ 7,800	141,500	100,500	▲ 41,000	22,300	55,500	33,200
デマンド交通	8,300	5,300	▲ 3,000	49,800	44,300	▲ 5,500	▲ 41,500	▲ 39,000	2,500
計	174,400	207,100	32,700	213,700	240,800	27,100	▲ 39,300	▲ 33,700	5,600

2.4 2022 年再編の評価のまとめ

- 2022 年の再編により既存の路線バス（再編後の幹線バス）の事業費は 4,100 万円削減、収支は 3,300 万円の大幅な改善が見込まれます。また、地域全体の収支も 560 万円の改善が見込まれます。
- 新たに支線バスを運行することで、南城市内を走行する路線バスの年間走行距離は、約 63 万 km から約 100 万 km へと大幅に増加し、利便性が非常に高くなります。

表 11.2022 再編での総走行台キロの変化

	再編前	2022再編	増減
支線バス	0	638,000	638,000
幹線バス	62,700	384,000	321,300
計	62,700	1,022,000	959,300